

# ラクオリア創薬

## 世界の有望市場に向け 新薬発売が相次ぐ

名古屋大学内に

産学連携センターを開設

私たちラクオリア創薬はファイザーの中央研究所を母体として誕生し、今年で設立10年を迎えたバイオベンチャーです。そのビジネスモデルは自社で創出した新薬のタネ

(開発化合物)をできる

だけ早期に製薬会社などに

ライセンスアウトし、その後の開発・承認・販売などの節目ごとに一時金やロイヤルティ収入を得るものです。現在、名古屋大学内に研究部門を設置し、数多

くのテーマで産学連携に

よる研究を進めています。

今年4月には「ラクオリア創薬産学協同研究センター」が開設に至り、当社が名大の各部署をつなぐハブとなつて「名大発の医薬候補化合物」の創出をめざす体制

が確立されました。共同研究の具体的な成果としては、4月に心不全の治療薬に関する共同特許を出願。非アルコール性脂肪肝炎（NASH）治療薬の共同研究も10月からスタートしました。

また、当社の発足時からの研究開発の柱が、痛み<sup>〃</sup>の分野です。人の痛みは、その発生部位から電気信号で脳に伝わりま

す。この信号を遮断できれば、理論的には、痛み<sup>〃</sup>の万能薬も可能だと期待されるのです。「イオンチャネル創薬」と呼ばれるこの分野で、当社はすでに製薬3社とライセンス契約を結んでいま

初の「ヒト向け医薬品」が  
まもなく韓国で発売

当社の研究開発のもう一つの柱が、消化器<sup>〃</sup>の分野で、胃酸分泌抑制剤は7月に韓国での製造販売の承認を得ました。これは高齢者や就寝中に多く起こる、胃酸が逆流して強い胸やけを感じる胃食道逆流症を抑える最新治療薬で、全世界で約2兆円とされる有望市場で

す。中国での大規模臨床試験も始まり、当社初の「ヒト向け医薬品」の上市が今後の成長をけん引することが期待されます。さらに統合失調症の治療薬もライセンス先で開発の最終段階に入り、来年には承認申請を行っ

て2020年の販売開始が見込まれます。

動物薬の分野ではすでに市場投入された新薬があります。ペットなど犬の変形性関節症に用いる治療薬、食欲不振治療薬は昨年から米

国で販売され、当社直近の収入の基盤となつていきます。

会社設立から10年を経過して、新薬の市場投入が続くことは当社の経営体質をさらに強固にするものです。創業時か

らの研究開発が次々と実を結び、来年にも黒字化を達成する当社の今後にぜひご期待ください。

### ラクオリア創薬の歩み

#### 18~19年 ヒト用医薬品発売予定

17年 動物用医薬品  
2剤を販売開始

14年~15年  
名古屋大学へ創薬研究部門を移転

● 11年7月 株式公開JASDAQ

● 08年7月 ファイザーからスピンアウト

● 2008年2月 設立

創業 成長 発展 飛躍



ラクオリア創薬  
代表取締役社長

谷 直樹氏

ジャスダック

証券コード 4579

<https://www.raqualia.co.jp/>